

令和4年3月8日

鈴木委員

私からは大きく2点お聞きしたい。ずっとこの委員会でも私もお話ししてきましたが、まずは水道施設の耐震化の推進をいろいろお話しさせていただいた。この中で私があなた方の資料とか毎回見ていつも思うことなただけけれども、管路の更新が何%だ、いろんなこと書いてあるけれども、管路っていろいろあるよな。その中で私が、ホームページのほうに全然出てないんで詳しいのを頂戴よとって、この水道施設の概要図というのを頂いてきました。そうしましたら、先ほどから寒川浄水場、多分ここを中心にして、いろんな要する給水体制ができていんだろうと私は思うけれども、今日は時間もないことだから1点に絞ってちょっと聞かせていただこうと。

この中で特に赤でずっと来ている、ある意味で基幹だよな、基幹の中には口径が1メートル50センチだとか1メートル80センチとか、中には2メートル近いものもあると。この基幹は要するに、ある意味だと本管だよな。これの耐震化率ってどれぐらいなの。

計画課長

委員おっしゃいました基幹管路、赤い線というのは送水管といいまして浄水場と配水池を結ぶ主要な管路になっております。それとあと、口径の大きい管もございます。それら合わせましていわゆる我々基幹管路と呼んでおりますけれども、その耐震化率といたしましては、令和5年度末までに約74%まで高めることで取り組んでいるところでございます。適合率と呼んでいますけれども、これにつきましては2021年度現在で70.7%でございます。

鈴木委員

適合率ってどういう意味か。

計画課長

材質が地震に適合していると、最大震度7に耐え得る地震の揺れに適合しているという水道管の割合を74%まで高めるということでございまして、震度7の地震にも耐え得るということでございます。

鈴木委員

その中でもう1つ私ちょっと心配だったのは、これこの委員会とは関係ないことなのかもしれないけれども、私はとにかく県民の方々に断水というのは絶対、絶対なんて言葉使っちゃいけませんね、あってはならないように施策はするべきだろうという観点からなただけけれども、この横を通っている緑の水道企業団の施設なんかは2メートル50センチもの要するに口径のものもあるじゃない、これ相当大きいよね。ここの耐震化率というのは、ほぼ100%終わっているんですか。

公民・広域連携担当部長

企業団の管路につきましては、先ほど言った耐震化適合率については、もうほぼ100%というふうに聞いております。

鈴木委員

私は、この中ですごく心配したことは、この中でもって令和7年度に向けてもまだ4分の1は残っているわけですね。そうすると、どんなに例えば枝葉のことを、例えば64キロやります何々と言っても、それと当然私も整合性は分からないから、どこで接続しているのか分からない、そんな過激なことは言えないんだけど、これは要するに耐震化というのをしっかりとした上での話としての枝管なら私は話聞くけれども。そうだよ、物事というのはそうだよ。大という基本的なものはきちっと整っていて、その上でもって枝をやりますよというのが本来の手法だろう。今のこの流れ見てみると、要するにまだ4分の1は、もっと来年、再来年ぐらいまではそれちょっと無理ですと、まだ100%までには行きませんというふうになったときに、これ県民の方々に対する説明責任というのはどうなるのかね。

計画課長

委員おっしゃるとおり、基幹管路、まだあと2割5分というぐらいの耐震化を進めなければいけないということになります。ただ、基幹管路、逆に言えば多くの県民の皆様が使用している何万戸という戸数がぶら下がっている管路でございますので、その影響が非常に大きくて、なかなか耐震化を進めるに当たっては当然断水することなく影響を全く起こすことなく取り組まなければいけない、そういった難しさ、問題もございます。したがって、なかなかそういった意味では管理の進捗というのが、小さい管路に比べると本当に少ない延長でしかないということになります。ただ、小さい管路をやらなくていいのかと言われますと、そこにも重要給水施設など災害協力病院というのを今取り組んでございますけれども、そういった命につながる病院などへの耐震化とかも平行して進めることでバランスよくやっていきたいというふうに考えております。

いずれにしても県民への説明責任、しっかりとこれから今30年先の長期構想を検討してございますので、その中で分かりやすく説明できるように検討してまいりたいと考えております。

鈴木委員

至極ごもったもな答弁で、私もそのとおりだと思いますよ。

その中で、時間も時間なんであれなんです、私1点ちょっと提案したいことは、今おっしゃったように断水をしなければならぬ状況下でもって枝管等とか、断水はどこでもつきものではありますが、私これ災害となっていたときには、熱海の姿もいろんなものを見ていて、結構県民の方々のやっぱり心痛というのは大変なものを持っていらっしゃる。だけれども、やはりそのときになったらやらなければならないというのは、やっぱりいかがなものかなと。

例えば、当然やっぱり私なんかが見ていても、皆さん方が図式でもって給水車が書かれていて、ここ行きますよと書いてあるのであれば、給水車から直にやっぱりポリタンク等々でもってやはり水をくんでいただくという、ある意味で平時のときにそういう訓練というようなものは少しずつだけれどもやれば、また何かあるのかというのもあって、それだけでなくテレビなんかで日本

沈没なんてやるものだから、また何か行政が動き始めたとかなくなっちゃいけないと私は思うので、ある意味でそういう訓練、こういうようなものの中でやりますので、逆に県水道を本当にしっかり守っていかなければいけないんだと。また、県民の皆様方のお力を頂くという意味で、私はこういう災害訓練という、水というのはどれほど大切なものなのか、また、皆さん方日常で、水と安全はただだという日本の中で今、安全もまた水も大変高価なものになっていると。その中で今回また料金の問題なんかも出てきているのであるならば、何としてもそういうものを防がなければならぬという1つのお題をつくるのはすごく大事で、その中ではやっぱりしっかりと災害対策というような形の中でやっぱり訓練の中に参加していただくと、大変きつい言い方かもしれないけれども、やっぱり御年配の方等々でお一人の方々が地域でそういうポリバケツを一緒に持っていていただくというようなことも、ひとつやり方として大事なかなと思いますけれども、いかがですかね。

計画課長

委員御指摘のとおりだと思っております。耐震化進めておりますが、まだまだ時間がかかる取組でございます。その間に来た場合に、やはり住民の方が、委員おっしゃるように応急給水でポリタンクなりバケツを運んでいただくことにどうしてもならざるを得ないというふうに考えております。これまでも給水車、給水タンク車などを使った訓練、拠点まで持って行くような訓練は市町の防災部局と訓練をしておりましたけれども、委員御指摘のとおり、そこから自宅まで県民、市民の皆様様に運んでもらう訓練というのはなかなかできておりませんでした。これも台風19号で大きな被害があったことも踏まえまして、今後市町と調整しながら住民参加型のそういった訓練もしていきたいと思っております。

鈴木委員

ありがとうございます。取りあえず提言として出させていただきます。

その中で、さらにまたちょっとこの項目の中の最後で、私はもうこの資料を毎回見て思うんだけど、例えば皆さん方から頂いた資料の1の10ページなんか見てみても、管路の更新の推進だって、これ更新率0.88%の81キロなんて、どこで何がどうしてだとか分からない。こういうものこそ、やっぱり100%に至るまではどれぐらいの道のりなのか、また、どれだけの費用がかかるものなのかもひっくるめて、そこが出せるかどうか別だけれども、やはりターゲットあれば県民は分かると。今の中、出てくる議会の資料でさえこういう中でやって、皆さん方もそれこそ専門家だからいろんなことぼんぼん来るけれども、私の受け止めでは分からないものがある。であるならば、やはりこのホームページ等々でしっかりとした管路の進捗率、こういうものについて県民が分かりやすくしっかりまた見ていただくようにホームページ等々でもって記載すべきだと思いますけれども、いかがですか。あわせて、何か最近のホームページ見てみると、県のホームページが2月28日にリニューアルしたものだから、何か全然何かうまくいってないよね。何見ても全然出てこないんだよ、本当に何かどこ行っちゃったんだろうみたいな。多分、全然県とのコネク트가うまくいってないんだろうけれども、そのこと2つひっくるめてちょっと答弁を短くお願いします。

#### 計画課長

30年程度の長期構想を考える中でしっかりとした取組、そしてしっかりとした効果を県民の皆様を示していきたいと考えております。県水道審議会の中でも給水区域の県民の皆様にも入っていただきますので、そういう県民目線、視点からも御意見を十分頂きたいと思っております。その上で分かりやすく何%になった、じゃ一体どうなんだというところが非常に分かりにくいこともございますので、例えば耐震化の取組によってどのぐらいの断水戸数が減るかとか、そういった影響戸数で表すとかの工夫をしながら、分かりやすくお伝えできるように取り組んでまいりたいと考えております。

#### 鈴木委員

分かりました。よろしく申し上げます。

あわせて、私、令和2年の何月だか忘れたけれども、おかげさまでウオーターサーバーを鎌倉駅の西口に設置していただきました。式典にも私も出させていただいて、大変おいしいお水を頂いて、その後も大変に好評で、1回だけ行ったんだけど、ウオーターサーバーあってもボトルを持ってきている人がなくて、出るんじゃないかと手を出した人がいたという、本当に笑えない冗談があったんです。

ところが、私もウオーターサーバーの事業1,139万円見ていて思ったんだけど、これ将来的にどうするのかね。1,139万円やって、常設だからと書いてあるけれども、今後いろんなところにつけていくっていうけど、これ将来的にどうするのか、これ、どういう戦略を持って取り組んでいるの。

#### 経営課副課長

ウオーターサーバーの今後の展開でございますけれども、まず、給水区域内の市町との連携を図りながら行っている事業でございますので、できるだけ多く設置していきたいとは考えてはおりますけれども、まず12市6町、各市町に1台ずつ、まずはそこから始めていきたいと考えております。

#### 鈴木委員

これ設置したら、お金どうなるの、水道代。ただですか。

#### 経営課副課長

基本的には市町の施設に設置いたしますので、水道代につきましては、その各市町の施設を管理しているところが支払うことになります。

#### 鈴木委員

だけでもさ、この可搬型の簡易式のウオーターをどうしても入れてくれとかといったら、どうするの。だって、そのまちの人じゃないじゃない、上に何かペットボトルみたいのがついているから。今あなたの言っているのは、この左側のやっぱり、19ページのところに書いてある設置イメージの中の、しかもこれウオーターサーバーもオリンピックのセーリング会場でつくられた、だから、当然県営水道から直に上げたものなんだと思うけれども、こういうのじゃなくて可搬式というような、例えばいきなりそんなのを3階か何かにつけてくれよというようなわけにはいかないじゃない。そしたら、可搬式だったら、上、ペットボトルというのか何ボトルというのか、これ、上からやらなければならないんだったら別途金かかるじゃない。これも払えと言ったら、いや、うちは要

らないよと言われませんか。

経営課副課長

基本的に各市町と連携して設置を進めていきたいと考えているのは、左側、委員の見ていらっしゃる左側にある水道管直結式のウォーターサーバーをメインで整備を図っていきたいとは考えております。市町によりましては、つける場所によっては可搬式のほうが設置しやすいとかという個別に話もあるかもしれませんが、その場合、水道の上にあるタンクですけれども、リットルとすると10数リットルぐらいの量になります。毎日1日取り換えたとしても1か月やっても1トンにはならないような数字になりますので、水道料金の金額的にいくと、それほどの負担にはならないということは考えております。

鈴木委員

今あなたの答弁で2つ疑問が起こるよ。

1つは、外につけると言うけれども、外だよ基本的にはね、中というわけにはいかないじゃない。工事代金というのが当然出てくるじゃない。外等々につけるんだったら、私話分かるけれども、中となったらすごく33市町村に、横浜、川崎等は無理かもしれないけれども、それ以外につけるとなるときには、これ設備をそれなりにいじくらなければならないから当然金かかるじゃない。それ、どっちが持つんだという話だよ、1つは。

2つ目には、外に万が一出すんだったら、そんなのは冬なんかは飲めないだろうということよ。

あなた、2つ目の話の中でもって、上だけじゃなくて下のサーバーの金もかかるわけじゃない、電気代も。そうすると、一体だから、さっきから私が言っているのは、どう戦略を持ってこのウォーターサーバーの活用というのは、ただただプラごみゼロ宣言だけというわけにはいかないだろうと私は言っているのよ。SDGsは分かるよ。それで私も質問したんだけど、ここまで広げてくださるんであるならば、さっき午前中でも他会派の方がおっしゃっていたけれども、水を売るんでしょうと。売るんだったら、売るなりのセールスのきちんとした、ストラテジーがあったっておかしくないじゃない。それを、分かりました、市町村につけます、金はどうするんですか、はあ、皆さん方から頂いた水道代、払っているのは別に横浜、川崎の人は関係ないだろうと。ここは違うよな。そうしたら、その人たち、俺は嫌だよと、払うの、1円返してくれということがあってもおかしくないんじゃないの、そういうことだろう。

今言っているのは、外につけるんだとしたら冬は無理だよと。私が頂いたのは、きっとおいしいから、セーリング会場で夏だからおいしいんだよな。これ真冬に行ったら、誰も飲まないよ。そういうコストと、もう1つは今言ったようにサーバーのコストというのはどうするのと、それ考えてやっているのかと、1,139万円もの金使って。私、それを聞いたかったのよ。ありがたいことだよ、私が提案して広げていただいて、私、広めていただきたい。だけど、やっぱりビジネスというような観点からも考えていかなければ、水を売ったほうがいいわけでしょう。売るんだった、どうするんだと、サーバー代。それと上のペットボトル、水代、それと設置料。そうしなかったら広まっていけないじゃない、こんなの。毎年毎年、はい、4か所か5か所だけやっていきますといたって、

何のためにやっているのという話になると思うよ、あと一、二年たてば。経営課の方、どうですか。

経営課副課長

鎌倉駅の西口に当初1か所目をつけたときは屋外型として設置させていただきました。その後、コロナ禍により衛生面の関係もありまして屋外につけるといことがなかなか難しいような状況にもなりまして、内部でも検討させていただいて、今後はいわゆる市町の体育施設であるとか図書館であるとか、そういう屋内のほうに設置することによって維持管理のほうも目が届きやすいようなこととなりますので、今後につきましては、いわゆる屋内のほうに設置するようなことを考えております。設置にかかります費用、ウォーターサーバーの設置代とか工事費につきましては、企業庁のほうが負担するというので考えておりました、実際設置された後の維持管理について、当該の市町のほうで面倒を見ていただくようなスキームで事業を進めていきたいと考えております。

鈴木委員

本当にそんな答弁していて大丈夫かな、あなた。私、最後に言うておくけれども、これから広めていく中でもって、きっと図書館の中、その他は今どんどんどんウォーターサーバーがはやっていて、お湯が出るような施設もちゃんと出ている。逆にお子さん等との対応からいったら、お湯が出ないものだったら設置してもいかなものかと、SDGsの観点と、逆に誰しも平等だという観点からどうなんだと。そうなってくると、今あなたの言ったことが本当にコスト的に合うのか、また、SDGsという観点からいって合うのか。そして、本当にこれからごみを減らしてペットボトルがなくて、みんなこういうマイボトルを持っていくのかという局面に必ず行き当たることは間違いないと思う。

そういうことも考えながら、どうかしっかりこの対応についてはやっていただきたいというふうをお願いして、終わります。